

〔様式 1〕

事務事業評価表

記入年月日	平成16年4月15日			
平成16年度	事業コード	11220	電話	042-769-9231
担当部課名	保健福祉部	高齢者福祉	課	いきいき応援グループ
事務事業名	敬老祝金等支給事業			
予算上の事務事業名	敬老祝金等支給費			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第2節	いきいきとした高齢社会の創造	63以前年度
施策名	第2施策	高齢者の社会参加と生きがいづくり	

2 実施根拠及び関連法令等

神奈川県敬老祝品贈呈要綱、相模原市敬老金条例

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

その他の経費

5 事務事業の分類

市単独事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)	
喜寿等の高齢者に祝金を支給し長寿を祝うとともに、多年にわたり社会に寄与されたことに感謝し、その労をねぎらい、さらなる長寿への励みにしていただくことを目的とする。	支給年度の9月15日現在で77歳・80歳・88歳・90歳・95歳・99歳・100歳以上の	
	対象数	単位
	5,973	人
(3)平成15年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容		
当該年度に祝金を支給した者の年齢と支給金額は次のとおり(90歳の者には記念の色紙を添えている)。 77歳 5,000円/80歳 7,000円/88歳 10,000円/90歳 10,000円/95歳 20,000円/99歳 30,000円/ 100歳以上 50,000円/支給者数合計5,973人 支給金額合計44,326,000円		
(4)個別計画の概要	概要	
計画名	なし	
計画年次	年度～年度	

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

16,17年度は目標値

	指標名	指標式・指標の単位	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				13	14	15	16	17
成果指標								
活動指標	祝金の支給率	最終支給者数/支給対象者数	敬老祝金を支給すべき者にもれなく支給されているかを表すものとして設定した。	100	100	100	100	100

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
		決算	決算	決算(見込み)	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	37,349	43,955	44,953	54,116	61,399
	人員・時間数	332.5(H)	332.5(H)	332.5(H)	332.5(H)	332.5(H)
	人件費	1,004	1,004	1,004	1,004	1,004
	その他経費					
	合計	38,353	44,959	45,957	55,120	62,403
特定財源						
対象数(人)		4,999	5,840	5,973	6,880	7,426
単位あたり経費(円)		7,672.2	7,698.5	7,694.1	8,011.6	8,403.3

10 個別評価(担当課による一次評価)

(1)達成度 評価 A ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	活動指標については、支給すべき者に対し、もれなく支給されているため。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 長寿の節目となる年にお祝いの金品をを贈呈することは、多年にわたり社会に寄与されたことに感謝し、その労をねぎらうだけでなく、さらなる長寿への励みにしていただくためにも有効であり、必要であるため。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		高齢者福祉の施策のひとつとして、対象者にとって身近なものとして受け取りやすいと思われるため。
		説明	
(4)効率性 評価 B ▼	A:優れている	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 対象者の増加により、祝金の支給総額やその他のコストは増える一方であり、今後は対象者や金額の制度の改正や、配布方法を口座への入金にするなどの配布方法の改正により、財政負担や労働コストの削減が必要になると思われる。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	節目となる年齢を対象年齢としているので、対象者の年齢での不公平はないと思われる。
(6)成果の向上及び費用対効果を高めるための方策		(7)今後の課題となっていること	
祝金対象者の増加により、支給総額は増える一方であり、対象年齢の見直しなどにより祝金の支給総額を削減することや、配布方法の見直しなどで労働コストを削減することが考えられる。		財政状況が厳しくなる中、現在の制度では対象者は増加傾向にあり、今後は対象年齢や金額の見直しや、祝金から祝品への贈呈品の転換、手渡しから郵送等の配布方法の見直しが必要である。	

11 総合評価(担当課による一次評価)

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較
	平成15年度では、県内37市町村全てで敬老祝金・祝品のいずれかを実施している。贈呈開始年齢は、大半の市町村が77歳(喜寿)からとなっている(最も早いところは山北町・開成町等の75歳)。贈呈金額や対象年齢の見直しを検討しているところもある(平成14年度と比較して、県内19市町が贈呈金額・贈呈品や対象の見直しを行った)。	
今後の進め方		
<input type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明 対象者にとっては身近なものであり、長寿のお祝いと共にこれからの更なる長寿への励みにしていただくためにも有効であり、必要であるが、配布対象者や金額、配布方法の見直しが必要である。
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止	
<input type="checkbox"/>	完了(廃止)済	

12 二次評価コメント(行政評価会議による二次評価)

<今後の進め方:見直し>
